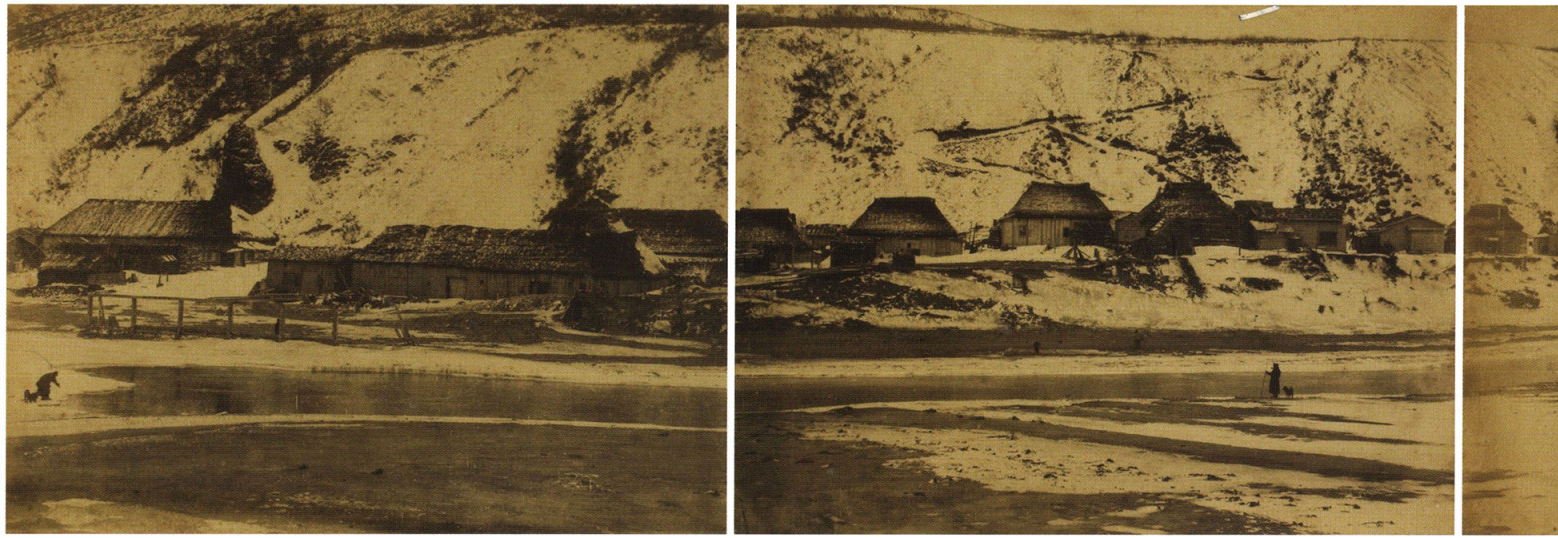
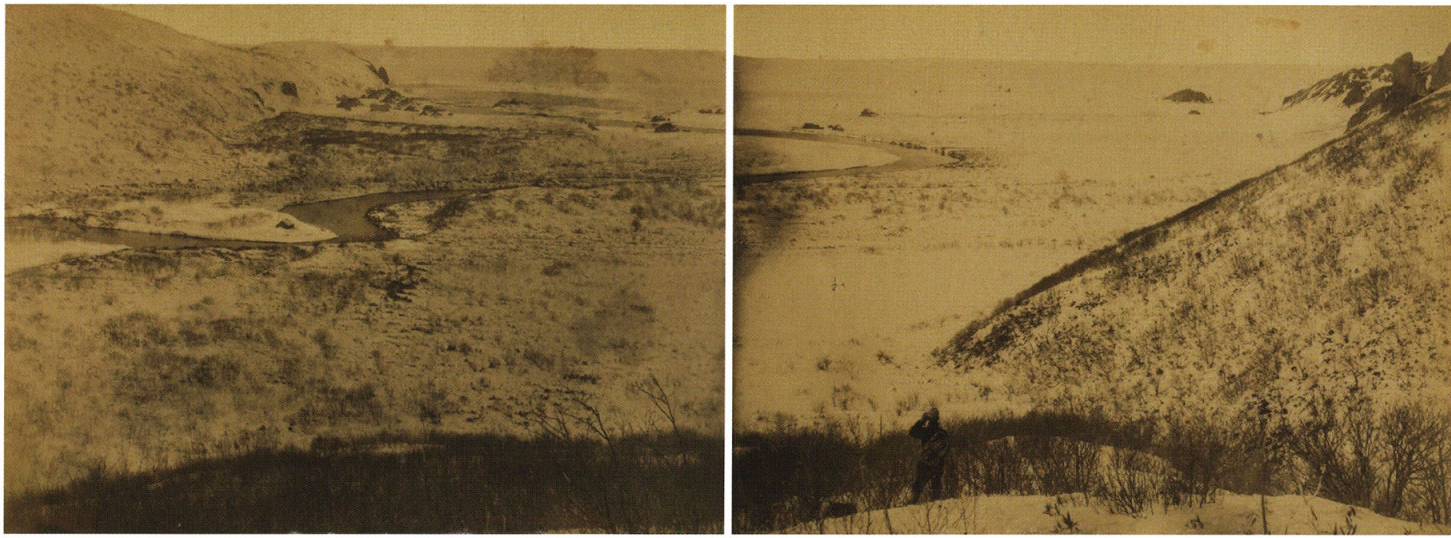




明治 25 年 3 月 15 日 択捉島薬取村字ピライシベツ海岸ヨリ同村字トイタベツノ岬ヲ望ノ景



明治 25 年 3 月 29 日 択捉島薬取郡西海岸薬取村村落之景



明治 25 年 4 月 4 日 択捉島薬取村東丘ヨリシベトロ川及村落ヲ望ノ景



明治 25 年 9 月 8 日 千島探検ヲ終へ帰京ノ途次根室ニ於テ紀念ノ為メ一行撮影ス(右から 3 人目が片岡利和)

14 明治二十四年同二十五年千島探検諸島之実景写真

一冊

遠藤陸郎

明治二十四〜二十五年(一八九一〜九二)

鶏卵紙

(大)二・六×二七・九、(小)一四・八×二〇・一

千島列島は明治八年(一八七五)、日露間の国境確定のために締結された樺太・千島交換条約により日本の領土となった。しかし、その開拓事業は遅々として進まず、開発・防衛に対する関心が次第に高まっていた。そのような中、明治天皇は明治二十四年、侍従片岡利和(一八三六〜一九〇八)を千島視察のため北海道へ差遣した。

本写真帖は視察に随行した仙台の写真師、遠藤陸郎(一八四五〜一九一四)が撮影した計百三十四枚の写真を収録

する。内容としては視察の実況や現地の人々の写真も含まれているが、主たる被写体は厳冬期を迎える十一月から翌夏にかけての千島の風景である。その特徴は、深雪を被った山野や地平線まで埋め尽くされた流水などをパノラマになるように撮影した点、双眼鏡で麓の村落を覗く人や流水上に立つ人のように、風景の中に意図的に人物を写し込んだ点である。このような撮影手法を取ることで、見渡す限りに広がる千島の大自然の臨場感を伝えている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan